

修学院小学校運営協議会だより

第33号 学校運営協議会理事長 青木 克之 修学院小学校長 鎌田 賢二
令和8年3月19日発行



春の気配が日ごとに濃くなる折、保護者の皆様にはお変わりなくお過ごしのことと拝察いたします。日頃より本校の教育活動に温かいご支援を賜り、心よりお礼申し上げます。

このたびは「修学院子ども育みアンケート」へのご回答にご協力いただき、誠にありがとうございました。皆様から寄せられた評価やご意見を踏まえ、学校としての課題をしっかりと受け止め、改善に向けた取り組みを進めてまいります。本号では、令和5年度からの結果と比較しながら、特に皆様とともに考えていきたい点についてご紹介いたします。

保護者の皆様からお寄せいただいた一つひとつの声を大切に、今後の修学院小学校の教育の充実に生かしてまいります。引き続き、温かなご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

～学校安全環境委員会 学び支援委員会 開かれた学校委員会～

今年度は、学校運営協議会の役員の皆様と本校教職員が6月に集まり、修学院小学校をよりよい学校へと発展させるための協議を行いました。

学校安全環境委員会では、6月に委員会を開き、校内の安全点検の確認、安全教育の進め方、地域における安全点検について意見交換を行いました。また、今年度は1月の地震避難訓練をはじめ、複数回の避難訓練に参加していただき、その都度貴重なご意見をいただきました。

学び支援委員会では、子どもたちの学習活動を支える取組として、12月に6年生の茶道教室を実施しました。茶道を通して、先人から受け継がれてきた礼儀作法やおもてなしの心についてご指導いただきました。

開かれた学校委員会では、年2回実施している「修学院子ども育みアンケート」について、評価項目の検討や結果分析を行い、保護者・地域への情報発信として学校運営委員会だよりを発行しています。

～ 修学院散歩 ～

「小野毛人(おののえみし)朝臣のお墓」

上高野の蓮華寺や崇導神社から140mほど登ったところに小野毛人墓があります。毛人は、遣隋使で有名な小野妹子の子であり、天武6(677)年に亡くなりました。慶長18(1613)年に墓誌が見つかりましたが、埋め戻され、大正3(1914)年に再び取り出され、1961年に国宝に指定されました。現在、京都国立博物館に保管されています。毛人が亡くなった当時、朝臣姓はまだ存在しないことから、毛人の子である小野毛野(けぬ)が作製し、追納したのではないかと考えられています。小高い丘陵から市内が一望できることから、風水地理説により選地されたとの説もあります。

(小池寛)



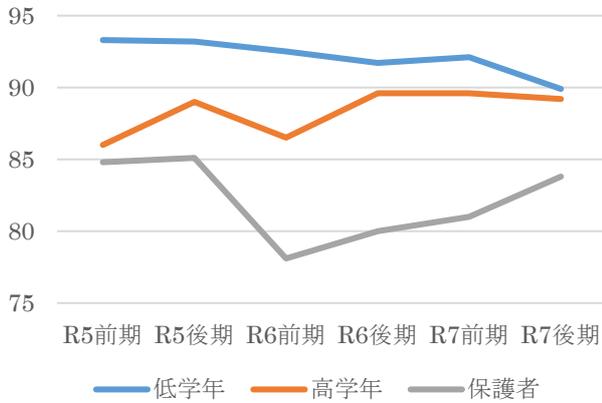
開かれた学校委員会

修学院子ども育みアンケートより

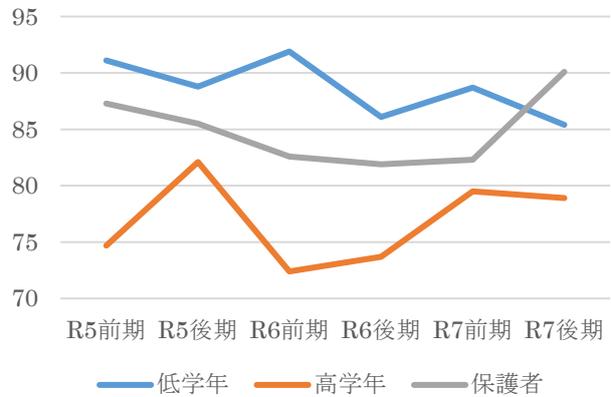
学校運営協議会の「開かれた学校委員会」では、令和5年度からの「修学院子ども育みアンケート」の結果を比較し、分析を行いました。アンケートから見てきた課題や成果を踏まえ、今後の学校づくりに生かしてまいります。また、学校運営協議会だよりでは、「確かな学力」「豊かな心」「健やかな体」の各項目における「よくできている」「だいたいできている」とご回答いただいた割合について分析しました。修学院小学校がよりよい学びの場となるよう、アンケート結果を今後の教育活動にしっかりと役立てていきたいと考えています。

確かな学力

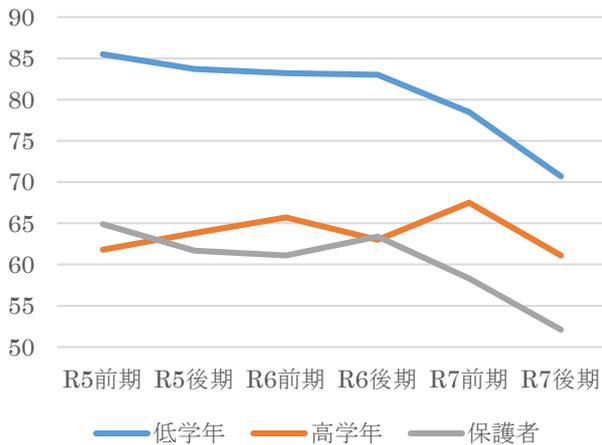
- ①【児】学校での学習を楽しんでいる。
【保】学習を楽しむことや学ぶことの大切さについて家庭で話題にしている。



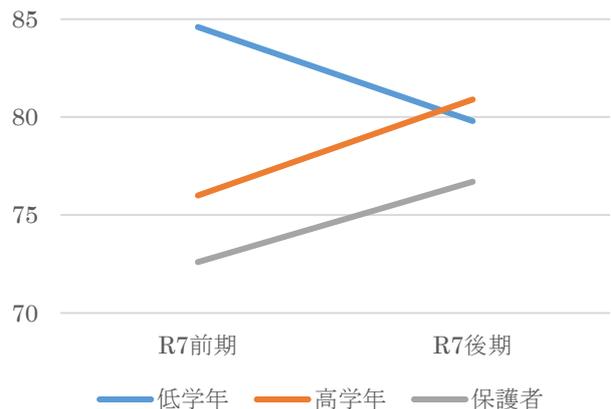
- ③【児】失敗を恐れず、挑戦することを大事にしている。
【保】我が子に失敗や挫折を咎めたりすることなく、挑戦することの良さについて話題にしている。



- ⑥【児】学校だけでなく、家でも読書を楽しんでいる。
【保】家庭で、読書の習慣がつくよう、言葉がけや環境を整えている。



- ⑦【児】授業や活動をふり返り、次にどうすればよいか考えている。
【保】我が子が、学習や生活の中で自分で考えて行動したり、ふり返ったりできるよう支援している。



※設問7は、令和7年度より新設の設問となります。

<学校より>

『確かな学力』に関する質問項目では、今年度も全体として肯定的な回答が多く、「学校での学習を楽しんでいる」では、令和5年度から引き続き高い割合が見られました。子どもたちが学習に前向きに取り組んでいることがうかがえます。

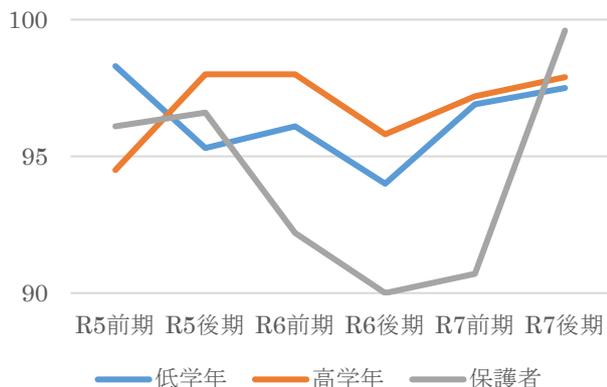
一方で、「失敗を恐れず、挑戦することを大事にしている」や「学校だけでなく家でも読書を楽しんでいる」では、肯定的回答が年々減少しており、課題として受け止めています。挑戦する姿勢を育むためには、失敗を学びの一部として肯定的に捉える文化を学校全体で根付かせていくことが必要です。また、読書習慣の定着には家庭との連携が不可欠であり、学校でも読み聞かせや図書ボランティア、本のリユースなど、子どもたちが本に親しむ機会の充実を図っています。

さらに今年度は、学習の振り返りを充実させるため「けてがれ学習法(計画・テスト・分析・練習)」を授業づくりに取り入れ始めました。アンケート項目「授業や活動をふり返り、次にどうすればよいか考えている」ではまだ高い数値とは言えませんが、少しずつ改善が見られています。学習過程を自分で捉え、次につなげる力は、今後さらに育てていきたい重要な力です。

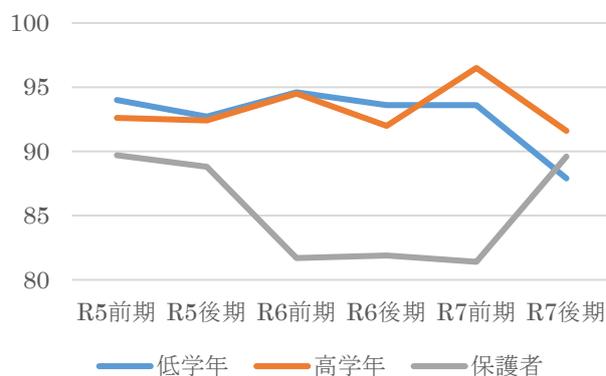
これらの取組を通して、子どもたちが学ぶ楽しさを実感し、自ら挑戦しようとする姿勢を育てていけるよう、学校として取り組みを進めてまいります。

豊かな心

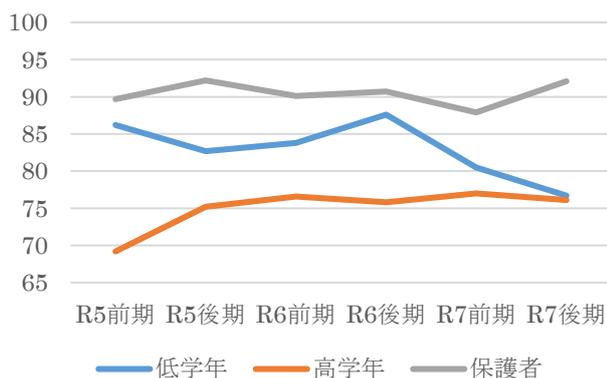
②【児】 友だちを大切にしている。
【保】 我が子に友だちを大切に、仲よくするよう働きかけている。



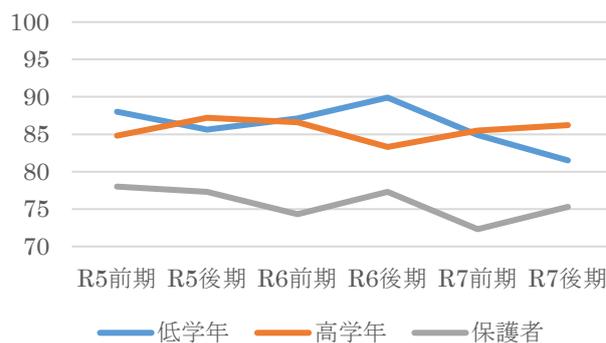
③【児】 安心安全を大切に、社会や学校でのルールやマナーを守ることができている。
【保】 家庭内でのルールやマナーを守ることができている。



⑥【児】 どんな小さなことでも、学校であった出来事を、家で伝えている。
【保】 家庭では、学校での出来事を聞くよう心がけている。



⑦【児】 ていねいな言葉づかいができている。
【保】 家庭でも人に対して丁寧な言葉づかいができるよう話し、自らも丁寧な言葉づかいを心がけている。



<学校より>

『豊かな心』に関する質問項目では、今年度も全体として肯定的な回答が多く見られました。「友だちを大切にしている」や「ルールやマナーを守ることができている」では、令和5年度から引き続き9割前後の高い割合で肯定的な回答が続いており、人との関わり方や生活の基本的な態度が着実に育っていることがうかがえます。

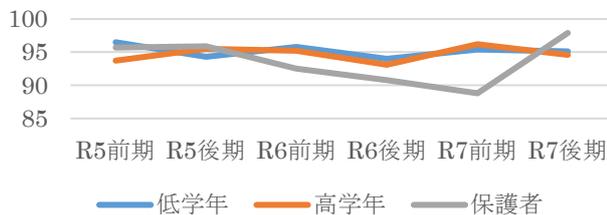
一方で、「学校であった出来事を家で伝えている」や「ていねいな言葉づかいができている」といった項目は、他の質問に比べてやや低い傾向が見られました。言葉づかいや日々のコミュニケーションの姿勢は、家庭・学校・地域など、子どもを取り巻く環境の影響を大きく受けることが知られています。近年の教育心理学では、子どもは身近な大人の言葉の“選び方や使い方”を模倣しながら言語を習得し、そこから人との関係の作り方を学んでいくとされています。また、肯定的で温かい言葉をかけられた経験の多い子どもほど、他者への共感や思いやりが育ちやすいことも示唆されています。日常の小さな声かけであっても、ていねいで前向きな言葉が積み重なっていくことで、子どもたちの心は豊かに育ちます。家庭や学校で交わされる言葉は、子どもが安心して人と関わるための大切な環境の一部です。あいさつのひと言、励ましのひと言、感謝のひと言など、身近な大人が意識して心地よい言葉を届けることで、子どもたちの言葉づかいや周囲との関わり方にも確かな変化が生まれていきます。

今後も、子どもたちが気持ちよく人と関わり、思いやりや丁寧な言葉づかいが自然と身についていくよう、学校全体で取り組みを続けてまいります。

健やかな心と体

③【児】交通ルールを守って、安全に登下校できている。

【保】我が子に交通ルールを守ることの大切さについて話をし、自らも守っている。



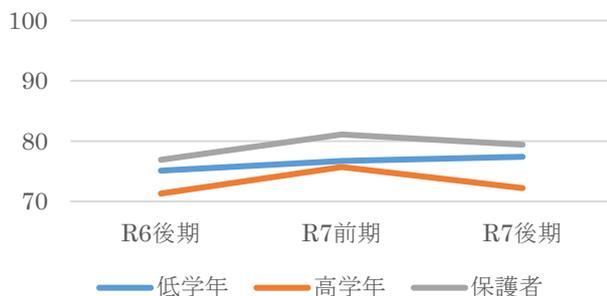
①【児】体育の時間や、外遊びなど体を動かすことを楽しんでいる。

【保】家族で体を動かす機会をつくっている。



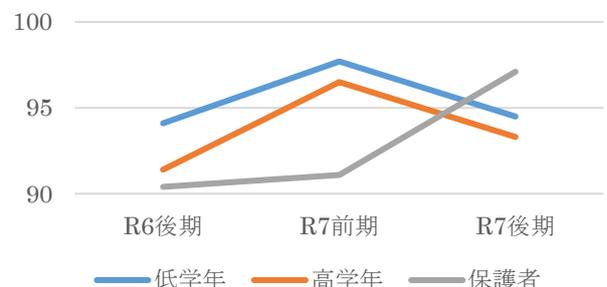
⑤-1【児】毎日、早寝・早起きをしている。

【保】我が子が、毎日、早寝早起きができるようにしている。



5-②【児】毎日、朝ご飯を食べている。

【保】我が子が、毎日、朝ご飯を食べられるようにしている。



<学校より>

『健やかな心と体』に関する質問では、今年度も概ね肯定的な回答が得られました。特に「交通ルールを守って安全に登下校できている」は児童・保護者とも9割を超え、安全への意識が安定して育っていることが分かります。「体育の時間や外遊びを楽しんでいる」でも高い割合が続き、運動習慣が定着している様子もうかがえます。一方、早寝・早起きや朝食に関する項目は比較的低めで、生活リズムづくりには家庭との連携が重要であると感じています。

本校では、下鴨警察署、PTA、見守り隊の皆さまの協力のもと、歩き方教室や自転車教室などを実施し、交通安全を中心とした安全教育を進めてきました。加えて、児童が学校生活の中で安全に過ごせるよう、休み時間の見回り強化や運動場からの戻り方・遊び方に関わる指導も行い、校内での怪我の防止に努めています。今後も地域の方々や TEAM SAFETY と連携し、安心して過ごせる環境づくりを進めてまいります。

「修学院こども育みアンケートの結果と分析」への提言

学校運営協議会「開かれた学校」委員会では、アンケート項目の検討や、結果および自由記述について学校と意見交換を行っています。

「確かな学力」「豊かな心」「健やかな心と体」では、肯定的な回答率が90%を超える項目が多く、修学院小学校の取り組みが評価されていると受け止めております。一方、自由記述では、教室内の保管スペース、学年担任制、熱中症対策、ICT活用、行事運営など、さまざまな面に関する建設的なご意見をいただきました。これらは切実なご提議として、今後も継続して確認してまいります。

また、校内において児童が負傷した事故についてのご意見を頂戴しました。委員会としては、学校が当時の状況を真摯に受け止め、安全面の確認や必要な改善を丁寧に進めていること、さらに引き続き再発防止に努めていることを確認しております。今後とも客観的な視点から提言を行ってまいりますので、ご意見をお寄せください。

(文責 小池寛)